

2013年 日高教定通部中国・四国・九州ブロック学習交流集会 報告

長崎高教組定通部長 濱本 功二（大村定時）

1. 日時 11月2日（土）14:00～11月3日（日）12:00
2. 場所 佐賀県武雄市 武雄温泉ハイツ 電話 0954-23-8151
〒843-0201 佐賀県武雄市大字永島 18091
3. 日程

11月2日（土）

- 14:00 開会行事
- 14:15 基調報告「生徒会活動について」 佐賀北高校通信制 新原和俊さん
- 14:50 各県交流（～17:00）
- 18:30 夕食交流集会

11月3日（日）

- 9:00～10:15 講演学習1「若者のサポート活動に学ぶ」
たけお若者サポートステーションからの報告 講師：里村勇士さん
- 10:30～12:00 講演学習2「武雄市図書館の現状と課題について」
講師：井上一夫さん（武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会 代表世話人）
中尾雅之夫さん（武雄市役所職員）
- 12:00 閉会式 閉会后、希望者は武雄市図書館見学。

4. 内容

11月2日（土）



基調報告「生徒会活動について」

佐賀北高校通信制 新原和俊さん

毎日登校してくる全日制や定時制と学修形態が大きく違う通信制高校は、社会的認知度がきわめて低い。必ずしも第一志望で入学したのではない一人一人の生徒に「この学校に来てよかった」と胸を張って卒業して欲しいという教職員の共通した願いの実現を目指した生徒指導部と生徒会活動の取り組み。（新原先生のレポートより）

① 課程編成

- 日曜日のスクーリング ・「佐賀課程」（佐賀北高に登校）
・「唐津課程」（協力校である唐津西高校に登校）
月曜日のスクーリング ・「月曜課程」

② 学科編成

普通科

被服科 … 唐津市の服飾専門学校「引地学園」と技能連携
卒業に必要な74単位のうち31単位を引地学園で取得。

③ 学期編成

- ・前期テスト … 9月スクーリング時に
- ・後期テスト … 2月スクーリング時に
- ・4月入学の前期入学生と10月入学の後期入学生（後期は月曜課程はない）
- ・卒業単位を取得した生徒で希望があれば、9月末の前期卒業式もある。

④ 生徒構成

本年度の卒業生637名のうち、一般生311名、転入生220名、編入生106名。
約半数が転編入である。70%以上が未成年で設立当時とは大きく様変わりした。

⑤ 北高通信制の目指す学校

「思いやりのある学校」作りを目指す。モラルアップ、マナーアップによりそれを実現していく。「この学校に来てよかった」と、入学したすべての生徒が思ってくれる学校を実現するには、生徒達が誇りを持って通学できる教育環境が必要。

⑥ 教育環境整備の取り組み



専用教室が6教室のみしかなかった。専用教室には使い古しの会議用折り椅子と折りたたみ長机が生徒の学習用の机、椅子だった。長机の所々には穴があった。09年100万円の予算が付き、管理棟図書室の椅子機の更新が行われ、佐賀県勤労者福祉会館から中古の椅子機が譲渡された。それまでは全日制に比べて、同じ県立高校の教室なのかと目を疑いたくなるような有様

だった。通信管理棟と新館との間に「憩い空間」の整備ができた。

⑦ 朝の挨拶運動

通信制の生徒が登校してくるのに合わせて8時半くらいから生徒会役員が校門に立って挨拶を始めた。月曜日は全日制の生徒が登校してくる時間とも重なるが、分け隔てなく挨拶の声をかけることにした。通信制の生徒自身から声かけを行うことで全日制と通信制の垣根を少しでも低くしたいという思いからの声かけだった。

⑧ 放課後の清掃活動

「使う前より美しく」というキャッチフレーズの実践。→ 以前からあった校舎内外のゴミ拾いに加えて、生徒会役員による教室内の清掃を09年度から実施。全日制との共用教室を、たとえ通信制が使う前に汚れていたとしても、スクーリングの授業で使った教室を掃除した。

⑨ 校外にも活動を広げる

放課後、学校周辺の弁当屋やスーパーの前を生徒会によりゴミ拾いを実施することにした。一目で通信制の生徒であることが分かるように「佐北通生徒会」の文字入りベストを作り、それを着用して校外に活動の場を広げた。

⑩ 全日制との交流

07年全国大会で優勝した全日制野球部との交流会を実施した。野球部に通信制生徒会が作成した「寄せ書きメッセージボード」を贈ろうという声が生徒会役員を中心として持ち上がり、スクーリングで登校した生徒に寄せ書きを書いてもらい、野球部に贈呈した。生徒会役員と野球部との座談会も実施。卒業祝賀会「弥生祭」を全日制放送部に撮影してもらった。全日制の生徒に「通信制とはどんなところか？」を実感してもらうことが主目的だった。

⑪ 託児室の取り組み

生徒が低年齢化してきた近年においても、女子生徒の中には、育児、家事、仕事をこなしながら登校している生徒も少なくない。そのような生徒はかなりの確率で母子家庭であり、年に1回だが、7月の集中スクーリング（文化祭）時に「託児室」の試みをこの3年間続けている。スタッフは佐賀市内で活動している子育て支援グループ「お助けママ」からメンバーを派遣してもらっている。「子育ては社会全体で」ということで、すべてのスクーリングで託児室の開設を目指して卒業生や保護者の支援、行政のバックアップを得て運動の輪を広げていきたい。

⑫ 部活動

13の部が活動している。

写真部が全国総文祭に参加したり、生徒会機関誌「北高 Link」が県総文祭・新聞コンクールで優秀賞を獲得したりしている。全日制の生徒と同じステージで自らを表現する場を持つことは、生徒達の大きな自信につながっている。

⑬ 学校行事



入学式の駐車場係をしたり、対面式などの行事の記録写真撮影に参加している。生徒会役員をはじめ部活動の生徒などが学校行事に積極的に関わりを持つことはきわめて意義深いものである。学校に対する帰属意識、自立心、積極性をはぐくむ絶好の機会になる。生徒総会（5月）、文化祭（7月）、体

育大会（10月）などを実施。体育大会では昨年からメインテーマを生徒から募集し、参加賞として渡す北通タオルのデザインにしている。生徒会機関誌「北通広場」（11月編集会議）、卒業生を送る会（3月）など。文化祭では、「佐賀」「唐津」「月曜」で課程別予選を勝ち抜いた8名が参加する生活体験発表の校内大会が開かれて県大会代表者2名を選出したり、「東日本大震災復興支援プロジェクト」のテーマの下、東北3県の県立通信制高校に対して復興支援メッセージの寄せ書きを書いたり、募金活動や模擬店の売り上げを義援金に充てるなど「身の丈にあった」復興支援を企画・実践した。

⑭ バルーンボランティア

校内での生徒会活動やマナーアップの運動に一定の成果が見られるようになった07年、佐賀を代表するイベント「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」へのボランティアに参加を始めた。4年続けていて、昨年度は5日間の大会期間中、延べ60名を超す生徒がボランティアに汗を流した。

⑮ 生徒会独自で取り組む行事

「行事」や「特活」など卒業に必要なもの以外に、次のような生徒会独自で取り組む行事がある。

- ・焼き肉会（6月、11月）… 年1～2回、会費1000円で全てを賄う。
- ・北通旅行（1月）… スクーリングの実施されない1月の土日を利用して『北通旅行』と名付けた1泊バス旅行を実施している。生徒と有志の職員とが、学校という枠から飛び出して交流を深める絶好の機会になっている。
- ・卒業記念祝賀会『弥生祭』（3月）… 『弥生祭』はいわゆる「予餞会」のことで、卒業式の1週間前にある。在校生は出校する日になっていないが、卒業予定

者と在校生あわせて 100 名前後が参加する。会費は会場によって 3000 円だったり 1500 円だったりだが、会費収入のみで全てが賄われる。

⑯ 生徒会独自の行事で深まる絆と交流

生徒会独自の行事は様々な困難を乗り越えながら、5回、6回と開催を重ねている。その中で、行事を企画する生徒会役員同士の絆が深まり、行事に参加することを通して生徒同士の多くの出会いと交流が生まれてきた。これらの行事を経験した卒業生達はその行事の度に学校へ来てくれる。同窓会も積極的にこれらの行事をバックアップしてくれる。行事を積み上げていくことで、在校生同士、在校生と卒業生、同窓会と在校生とのつながりがいっそう深まっていつている。

⑰ おわりに

生徒指導部と生徒会が大きく変わった節目に当たる 06 年を境に、学校行事の中に生徒会が関わるだけの活動のあり方から、生徒会役員ひとり一人が能動的に生徒会に関わり、自立した生徒会活動が展開していく時代へと大きく転換していった。生徒達の間にもやる気の連鎖を引き起こし、地道な努力を積み重ねている。

新設された生徒会が独自に取り組む行事は、様々な学校行事を体験することで充実した学校生活を送って欲しい、仲間作りをして欲しい、その体験を通して社会人としての礎を築いて欲しい、そして何より学校生活を楽しんで欲しいということが根底にある。全ての通信制に学ぶ生徒達が、「この学校に来てよかった」と思える学校に少しでも近づけたら、この数年間の生徒指導部と生徒会の取り組みは多少なりとも意味のあることだった。

11月3日（日）

9:00~10:20 講演学習1「若者のサポート活動に学ぶ」

「アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」
～社会的孤立・排除を生まない支援体制の確率に向けて～

たけお若者サポートステーションからの報告 講師：里村勇士さん



NPO スチューデント・サポート・フェイス(S.S.F.) の佐賀県における位置づけ
～子ども・若者育成支援推進法における
中核機関を担う NPO 法人～
都道府県単位では、全国初となる佐賀県の取り組み

- ・「たらい回し」を防ぐ一時的「受け皿機能」
- ・0～40歳まで、相談は何でも受ける。(生徒ばかりではなく教師などからの相談も)
- ・いじめ問題、発達障害、養育問題、虐待問題、非行問題、クレーマー問題、家族問題、高校中退者問題、ニート問題 … → 従来型の支援では対応できないことがある。
- ・足りないもの、必要なものは協働で作ります。
- ・就業させた後の人生を豊かにさせるために、仕事だけに重きを置くのではなく趣味やスポーツなどの話もする。
- ・10数名で立ち上げて現在ボランティアを含めて200名。常勤は50名？
- ・終身雇用の保障がない。給料が小学校の教員より少ない。
- ・武雄市 地域に飛び出す公務員 中尾さん
地域の役割 — いいところを見つけて褒める。

10:30～12:00 講演学習2「武雄市図書館の現状と課題について」

講師：井上一夫さん（武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会 代表世話人）
中尾雅之夫さん（武雄市役所職員）

- ・武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会から市教委へ公開質問状を出した。
公開質問状の概要

- I. 公共建築として利用者安全等の問題
災害時の避難誘導や新しい図書館の構造上において問題がある。
- II. 公共図書館としてその機能の問題
全体で4か所あったトイレが1か所に集約された。歴史資料館としての機能がなくなった。



- III. 武雄蘭学館を蔦屋書店に渡した問題
歴史的な価値が高い「武雄蘭学館」を蔦屋書店のDVD・CDコーナーに改修したのはなぜか。
- IV. 行政手続き上等の問題
(図書館の改修工事期間に) 建築基準法確認済(証)が現場に掲示されていなかった。蔦屋書店のテナント料が、市教委積算の賃借料1200万円が半額の600万円に減免されたと聞いた。

V. その他の教育問題 ICT（情報通信技術）教育について

武雄市における ICT（情報通信技術）教育の全体像が見えない。この政策の哲学はどこに、計画は立てられているのか、行程表はできているのか、その全体像を市民に示して欲しい。

（中四九ブロック学習交流集会に参加して）



佐賀北高校通信制の新原和俊先生のお話にはたいへん感銘を受けました。通信制という限られた時間でしか学校に出て来られない生徒達が、生徒会の活動を通して周りとの関係を気づき北高通信制に入学してよかったと実感して卒業していくすばらしい実践報告でした。あまりにもすばらしくて、同じような実践をすることは到底できませんが、参考になることも多くありました。

「NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス(S.S.F)」の里村勇士さんの報告は、分かりやすく、今後相談したい事例が出てきたときは相談したいと思いました。

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」代表世話人の井上一夫さんのお話では、マスコミにも大きく取り上げられている武雄市図書館ができるまでの問題点や課題が理解できました。

今回の学習会は、長崎県から7名の参加でした。来年は山口県で開催される予定です。来年も多くの人に参加して、他県の教職員や他分野の人との交流を深めていければと思っています。